

「+1」「+2」を増強へ

平野ロジステイクス

羽田増枠でOLT需要拡大

平野ロジステイクスは、96センチ仕様のユニット・ロード・デバイス(ULD)を4台搭載できるセミ・トレーラー車「+1」、5台搭載できるフル・トレーラー車「+2」を増強する。今年3月末の羽田空港昼間時間帯国際線発着枠の拡大も背景に、航空会社のOLT需要の拡大に対応する方針だ。また成田空港外の関東支店(成田市三里塚)に倉庫を整備し、輸入通関後の貨物の一時保管、一般貨物の保管などを手掛けるなど、首都圏における事業を強化している。

成田空港外では倉庫稼働



益子研一支店長

通常のトラックのULD搭載は3台までとなるが、「+1」はこれにより1台、

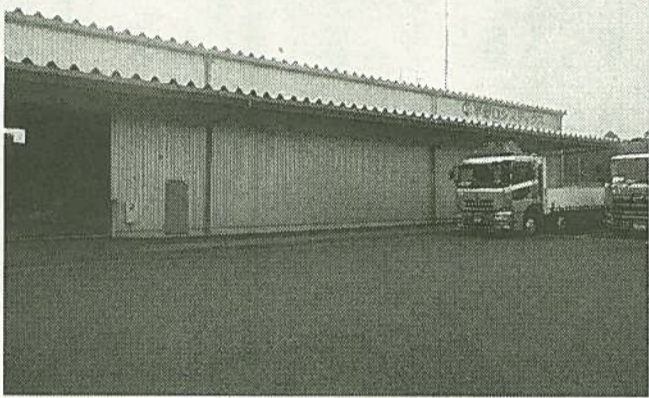
「+2」は2台多く搭載できることが特色。「+1」は車軸が1軸で大型車に分類されるため、高速道路料金(大型車)と同等。ULDを1枚搭載でき、かつ高速道路料金がトラックと変わらない。高速道路を利用する長距離輸送

にメリットを發揮するため、例えば首都圏・中部・関西のOLTなどに適している。

平野ロジステイクスは例えば長距離のOLTは「+1」、成田・羽田など比較的距離の短い輸送は「+2」を活用するといった形で使



平野ロジステイクスの「+1」



成田空港外の倉庫施設

ドイツポストDHLへ10ヶ月期 EBIT7%増の9億円

ドイツポストDHLの2013年10〜12月期連結決算は、売上高が前年同期比0.6%減の144億円

た。また、15年12月期のEBITの目標は33億5000万〜35億5000万円。セグメント別では、メール

1億7800万円だった。13年通期連結決算は、売上高が0.8%減の550億円、EBITは7.4%

エクスプレス部門の売上高は0.5%減の127億円、EBITは2.1%増の11億3300万円。前年はVAT関連での支払いや構造改革費用を計上していた。各サービス取扱実績をみると、国際エクスプレスの配達時間指定サービス(タイム・デフィニット・

営業益2倍、貨物売上高4%減
プラットフォーム「貨物改善の兆しなし」

キャセイパシフィック航空(CPA)グループの2013年通期連結決算は、売上高が前期比1.1%増の1004億香港ドル(1兆3052億円、1香港ドル=13円換算)、営業利益は約

部門の売上高は3.7%減の236億香港ドルだった。CPAのクリストファー・プラットフォームは「貨物事業は引き続き苦戦を強いられおり、持続的改善への兆しは見られない」「産業構造に変化が見え始めていることから低迷の要因は周期的なものではなく構造的なものと考えられており、貨物運航機材を減らすとともに運航効率を高めることに対応している」とした。特に、欧州の需要が低迷した。

CPAと香港ドラゴン航空(HDA)の貨物売上高は6.1%減の202億香港ドル。貨物・郵便輸送実績は1.5%減の153万9000ト。供給量(有効貨物トンキロATK)は1

リエンジニアリング・ハブに新仕分けシステム

し、2016年までに完了する予定だ。仕分け能力は50%向上する。輸出貨物お

最終便はJAおきなわの貨物で満載だった

成田と羽田間あるいは他空港と羽田間のOLT需要の高まりが見込まれることも「+1」「+2」を増強する背景にある。

成田支店の益子研一支店長は「航空会社はパッセンジャー便を羽田空港中心に運航する傾向をより強めることになるだろう。一方、フォワーダーの物流拠点は成田空港外が中心だ。フォワーダーの貨物の搬入先あ

るいは引き取り先は成田空港という傾向にあり、今後は航空会社による成田と羽田間の横持ち輸送が増加するとみている。航空会社がより効率的に横持ち輸送できるオペレーションが重要となり、われわれがそれをお手伝いできれば」と語る。

一方、平野ロジステイクスは成田空港外で昨年から倉庫を稼働させている。倉庫面積は約1000平方

のファイナンスリース契約を前倒しで終えた。CPAと中国国際航空の合併会社、中国国際貨運航空は13年に古い機材の退役を進め、メンテナンスコストを圧縮。CPAにかかると損失を削減した。

フェデックスは2012年5月、同ハブの開設を発表した。同社は関空と韓国・仁川をハブ整備の候補として検討してきたが、関空が米国に近いという立地も生かし、中国北部、韓国など北アジア地域の貨物を集約、輸送する。発表時の計画では、施設面積は約3万8000平方メートル(ひさし含む)、駐機場は最大7機を予定、貨物処理能力は1時間当たり9000個。施設自体は空港会社が国際貨物上屋G棟として整備。昨年末にはフェデックスに引き渡し、その後フェデックスが内部工事を進めてきた。

関空の北太平洋地区ハブ稼働迫る

フェデックスは2012年5月、同ハブの開設を発表した。同社は関空と韓国・仁川をハブ整備の候補として検討してきたが、関空が米国に近いという立地も生かし、中国北部、韓国など北アジア地域の貨物を集約、輸送する。発表時の計画では、施設面積は約3万8000平方メートル(ひさし含む)、駐機場は最大7機を予定、貨物処理能力は1時間当たり9000個。施設自体は空港会社が国際貨物上屋G棟として整備。昨年末にはフェデックスに引き渡し、その後フェデックスが内部工事を進めてきた。

フェデックスは2012年5月、同ハブの開設を発表した。同社は関空と韓国・仁川をハブ整備の候補として検討してきたが、関空が米国に近いという立地も生かし、中国北部、韓国など北アジア地域の貨物を集約、輸送する。発表時の計画では、施設面積は約3万8000平方メートル(ひさし含む)、駐機場は最大7機を予定、貨物処理能力は1時間当たり9000個。施設自体は空港会社が国際貨物上屋G棟として整備。昨年末にはフェデックスに引き渡し、その後フェデックスが内部工事を進めてきた。

関空の北太平洋地区ハブ稼働迫る

フェデックスは2012年5月、同ハブの開設を発表した。同社は関空と韓国・仁川をハブ整備の候補として検討してきたが、関空が米国に近いという立地も生かし、中国北部、韓国など北アジア地域の貨物を集約、輸送する。発表時の計画では、施設面積は約3万8000平方メートル(ひさし含む)、駐機場は最大7機を予定、貨物処理能力は1時間当たり9000個。施設自体は空港会社が国際貨物上屋G棟として整備。昨年末にはフェデックスに引き渡し、その後フェデックスが内部工事を進めてきた。

最終便はJAおきなわの貨物で満載だった

沖縄県産菊切り花臨時便
本土向け輸送31年目
日本航空

沖縄県産の彼岸用菊の切り花の出荷がピークを迎えている中、日本航空は12日、那覇空港で臨時便最終便(13日運航)の運航のセレモニーを開催した。日航は旅客機B777-300型機(最大積載重量約20ト)を利用した臨時便を羽田向けに、昨年に比べ1便増やし、4便運航する。当日は沖縄県農業協同組合(JAおきなわ)が出荷状況について、作柄など順調に推移していると説明した。

日航は1983年3月、貨物チャーター便で菊の切り花の本土市場向けの輸送を開始。輸送は今年で31年目。また、沖縄県が本土復帰以前の54年2月5日に羽田-那覇を開設。先月、沖縄線就航60周年を迎えた。